

科目名 (科目番号)	日常生活活動学 (時間割参照)	教員名 沼尾夏葵, 他	学科等	理学療法	必修	履修年次	2
			曜日・時限等	時間割表参照		単位数	1
			授業形態	講義	オフィスアワー	別紙参照	
授業概要	日常生活活動（ADL）とその関連領域に関する基礎的知識について学習する。						
目的・目標	目的：ADLとその関連領域の概要を理解する。 目標：理学療法の実施にあたって必要となる，ADLとその関連領域に関する基礎的知識を身に付ける。						
準備学習	毎回の授業について少なくとも1時間程度の予習・復習をすること。						
授業計画	回	授業項目	到達目標・学習内容				
	1	・総論 ・ADLの概念と範囲	到達目標： ADLの概念と範囲を理解し，説明できる。 学習内容： ・総論，授業概要説明 ・ADL，APDL，IADL，EADLの概念と含まれる範囲				
	2	基本動作とセルフケア	到達目標： ADLの中核をなす基本動作とセルフケアの動作の特徴を理解し，説明できる。 学習内容： 基本動作，セルフケア動作				
	3	ADLとICF	到達目標： ICFモデルを使って，理学療法評価で得られた結果を整理できる。 学習内容： ICFの概要				
	4	ADLの質的評価	到達目標： ADLの「質的評価」の考え方を理解し，評価法のポイントを説明できる。 学習内容： ・ADL評価の概要 ・ADL評価における「質的評価」の概要				
	5	ADLの量的評価	到達目標： ADL評価のうち「量的評価」に含まれる各種評価指標を理解し，ポイントを説明できる。 学習内容： BI，FIM等の主要な評価指標の概要				
	6	疾患別ADLの特徴①	到達目標： 主要な疾患（障害）によるADLへの影響を理解し，説明できる。 学習内容： 主要な疾患（障害）におけるADLの考え方				
	7	疾患別ADLの特徴②	到達目標： 主要な疾患（障害）によるADLへの影響を理解し，説明できる。 学習内容： 主要な疾患（障害）におけるADLの考え方				
	8	その他，総括	到達目標： その他のADLに関する知識を整理し，説明できる。 学習内容： ・視覚障害者のADL ・ADL支援の今後の課題，他 ・総括				
成績評価の方法・基準	対面時： 期末試験（100%） オンライン時： 期末試験（60%）＋課題（40%）						
教科書	①標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学 第7版 ②脳卒中の機能評価 SIASとFIM（基礎編）		鶴見隆正, 隆島研吾 編 千野直一 他 編著		医学書院 金原出版		
参考図書	①シンプル理学療法学シリーズ 日常生活活動学テキスト ②CrossLink理学療法学テキスト 日常生活活動学		細田多穂 監修 臼田滋 編		南江堂 メジカルビュー社		
教員からのメッセージ	・一般病院で勤務した経験のある理学療法士がこの授業を担当します。 ・オンライン授業に伴い授業計画に変更がある場合は，オンラインクラスで変更のシラバスを周知いたします。 ・オンライン授業となった場合の課題（40%）については，随時採点し結果をお知らせします。						